

展覧会はその時、その場でしか体験できませんが、カタログは後まで残ります。そこで考えた「これからの写真」のカタログコンセプトは、読み物として充実させること。出展作家の解説・作品画像以外のコンテンツも充実させ、展覧会を見ていなくてもカタログ単独で楽しめる本を目指したのです。そういうわけで、今回はカタログのお勧めポイント等を勝手ながら紹介します。

○参考文献

今回は「写真について学びたい人」向けの参考文献一覧を付けてみました。というのも、私が大学に入って美術の勉強を始めようとしたとき、さて、何から読んだら良いのか分からん…という事態に直面したためです。インターネット等で「美術」「アート」と検索すると、もう古今東西の本や言葉が山ほど出てきますね。勉強する以上、年代順に最初から学ばなくちゃいけないのか、となると、洞窟壁画から!?ギリシャ哲学から!?となってしまうわけです。

そこで、今回のカタログでは、写真に関する学術書を整理して紹介文とともに掲載しています。オーソドックスな写真史、スーザン・ソントグやロラン・バルトなどの写真論はもちろんのこと、ファッション写真や報道写真といった社会の中での写真の位置づけについても目を走らせつつ、デジタル以降の動向もおさえる!それぞれの領域、分野ごとにおすすめの本が載っており、それらの紹介文をまとめて読むだけで、写真研究の現在がマッピングもできてしまいます。参考文献は、関西で写真の研究をしてい

る林田新さんを中心に編集していただきました。



↑あまり関係ないですが、色校正の様子。鈴木さんとは、夜の12時にセブンイレブンの前で待ち合わせして色校正をしたのでした。スポンジ一つ一つの色を確認する作業…。

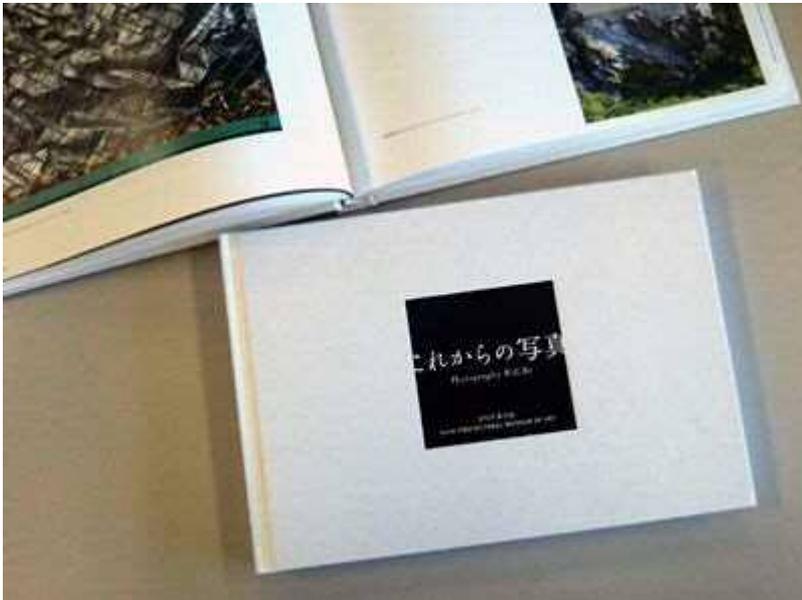
○写真関連年表

人間は、地図を見るのが好きな人と年表を見るのが好きな人に分けられると聞いたことがあります。私は断然、年表派です。とりわけ、一見すると無関係な出来事が同時期にそれぞれ起きているのを眺めるのが好き…。

また、芸術としての写真は、写真全体からするとごく一部で、それ以外の多様な目的のもと、日々、大量に生み出され眺められています。そこで、芸術写真以外の社会の変遷も視野に入れた年表にしました。この難事業を主に進めてくださったのは、写真研究家、富山由紀子さんです。

川内倫子と松江泰治の両氏が木村伊兵衛賞を受賞した2001年、Google社が日本法人を設立してブロードバンドも普及。その年に横浜トリエンナーレがスタート。とか、土門拳賞を土田ヒロミが受賞していた2008年に秋葉原通り魔事件で監視カメラの設置が進んだ、等々、改めてみると発見がたくさんあります。

なお、最初、富山さんが作ってくださった年表は、プリントすると A3 にして 12 枚以上におよぶボリュームで、ページのレイアウトを担当したデザイナーの見増勇介さんも頭を抱えてしまい、泣く泣くみんなデータを削りました。



文字通り、関係者の汗と涙といろいろなモノの精華であるこの一冊、ぜひ、皆さんも手にとってみてくださいね。

（なお、芸術文化センターではネットによる販売はしていません。名古屋には足を運べないけど郵送で購入希望の方は、052-971-5511（愛知芸術文化センター代表）にお電話いただき、「写真展のカタログ購入希望」とお伝えください。担当部署までつないでくれます。そして、最後がテレフォンショッピングなメ方ですみません…）。

（F.N.）